概　説

今回の改定レッドデータブック作成では、福井県で記録のある国レッドリスト掲載種、近隣県での選定種、調査員の 2002 年以降の調査記録を加え、両生類の調査経験の豊富な人材を新たに集め、重点的に種、調査地を決め、平成 25（2013）年から平成 27（2015）年まで実施した。この重点追跡調査を基礎として、環境アセスメント調査データの活用を付記して、第 1 版より客観性を高めている。

前回 RDB で記載されているアオウミガメ、タイマイ、オサガメは対馬暖流に乗って北上し、死体漂着や福井県嶺南地域の定置網により混獲されることが多くなっている。最近、対馬暖流の温水域北上に伴いアカウミガメ・アオウミガメの漂着成体記録が 4 から 5 例、子亀の漂着が 20 例（2014）ほどに増えてきているが、県内での繁殖記録が確認されていないことからランク外とした。タイマイ、オサガメは死体漂着しかないので削除している。今回は産卵記録のあるアカウミガメのみ県域絶滅危惧Ⅱ類とした。海亀などの漂流個体、定置網での混獲記録は越前松島水族館が残している。アカウミガメの産卵記録は、1967 年の小浜海岸（徳本 .1984）に次いで 2008 年のあわら市浜坂での 2 例がある。砂浜の縮小で危機的状態である。

平成 27 年 12 月現在、陸水生爬虫類はカメ目 2 科 5 種、トカゲ目 5 科 11 種の生息が確認されているが、その後の調査でも種の追加はなく、本州産爬虫類のほとんどが生息している現状である。1997 年の「環境影響評価法」や 2011 年「環境影響評価法一部改正に関する法律」の施行以来、自然環境の環境アセスが実施されているが、農業県福井では、それ以前から始まった中流域から下流域は，圃場整備、農業用排水路の整備・パイプライン整備化が進み、ニホンスッポン、ニホンイシガメは、クサガメや外来種のミシシッピアカミミガメの福井県の湖沼や一級河川や支流上流域までの繁殖拡大や餌の食害が拡大していることによることと、生息・産卵環境が悪化し、生息確認地点や確認個体群が急激に縮小しているため、要注目から県域絶滅危惧種にランクアップしている。

さらに、里山に生息する夜行性のタカチホヘビ、シロマダラ、田園地帯に生息するヒバカリも、大型開発工事時の環境アセスにより生息情報数は増大している。一方開発の影響のない地域での情報量が少なく、全体としてまだ、情報量が十分でないため要注目のままとした。

その他、1985 年上志比村（現福井市）竹原弁財天のシロヘビ記録、シマヘビやアオダイショウ、ヤマカガシの黒化型カラスヘビ、イシガメとクサガメの交雑種ウンキュウの生息記録もあるが除外している。第一版目録発行以来、森林伐採、住宅開発、護岸改修、道路建設環境、生活向上関連工事も決して減ってはいないため、アオダイショウ、ジムグリ、ヤマカガシ、ヒガシニホントカゲ等も生息確認情報は減少している。爬虫類に関して生息環境が良くなったとはいえず、福井県保全種目録作成の効果はまだ見られない。ニホンヤモリのみ、気候温暖化の影響か、県内での居住地で生息が普通に確認できるようになった。

表　2016 年福井県改訂版レッドリスト（爬虫類）の選定種数とその増減

ランク	第 1 版リスト	改訂リスト	増　減
県域絶滅	0	0	―
県域絶滅危惧Ⅰ類	1	0	－1
県域絶滅危惧Ⅱ類	3	1	－2
県域準絶滅危惧	0	2	＋2
要注目	4	3	－1
地域個体群	―	―	―
合　計	8	6	－2

（長谷川 巖）